

令和2年度 学校評価(自己評価表)		米子北高等学校	
建学の精神	基本的生活習慣(躰)の育成をとおして、人格陶冶をはかり、地域社会に貢献できる人材を養成する。	中長期目標	地域に貢献し、地域から応援してもらえる学校を目指す。
学校教育目標	【input】【thinking】【output】【reflection】4つの行動で、 ①対話力の向上を目指して社会で生きる力を身につける。 ②学習習慣の確立を目指して「学びに向かう力」を身につける。	今年度重点目標	1. 主体的、継続的に学びに向かう姿勢の定着 2. 基本的生活習慣と規範意識の確立 3. 安全・安心な学校生活空間 4. 地域に信頼される教育・地域の人が自慢できる学校づくり 5. 特色ある教育の推進

評価項目	関連分掌	評価の具体項目	現状	具体目標	具体方策	経過・達成状況	自己評価		関係者評価	評価に対するコメント・改善方策
							中間	最終		
1. 主体的、継続的に学びに向かう姿勢の定着	教務	アクティブラーニング等で授業改革	各教科においてICT活用、ALの視点を持って授業を組み立てることが行われているが、まだ、全体に浸透していない。	学びに向かう姿勢が定着し家庭学習時間の増加につなげる。	各教科で研究授業等の計画を実施してもらう。新学習指導要領をもとに授業改善を加速化させる。	コロナ禍だけを理由にするのは良くないが、今年度はALの視点を取り入れた研究授業に取り組み辛く、研究授業は進まなかった。次年度は新課程に向けて準備を急がなければならず、授業改善は必須になってくる。	C	C	C	3学期に各教室の生徒用Wi-Fiの工事が実施され、今後全ての教室で教員がタブレットを用いた授業、生徒がタブレットを使った授業ができるようになるはずである。更にホワイトボード、プロジェクターの環境が全教室に整えば、全クラスでICTを活用した授業が可能になる。次年度内にできる限り環境を整え、生徒個々のタブレット導入に向けて準備を進めていきたい。
	進学	進路指導の充実	普通コースと進学・特進コースの実状にあわせた取り組みを段階的に計画している。	明確な志望動機を持たせ、進路実現のために自ら計画的に取り組むことができるようになる。	普通コースにおいては進路希望に応じて進学、就職セミナーを時間割に組み込み、2、3年を通して取り組ませいく。進学・特進コースでは、課外、特講などで学力向上をはかると共に、志望校設定を早期段階から継続的に取り組ませいく。	3年生においては前年度から変更等が相次ぎ、生徒自身が動くことなく入試にも対応できた。また、1学期に実施できなかった進学ガイダンスを、2年進学セミナーでは、分野別ではあるがオンライン形式で実施することができた。1年進学・特進コースには新たな講演会を実施した。2年進学・特進コースでは、秋以降で志望理由書作成に取り組ませ、入試を意識させた。	B	B	B	新型コロナウイルス感染症の影響で1学期に実施できなかった進学ガイダンスを、秋以降はオンライン形式で開催できたことはひとつの進歩である。また、3年担任の先生方への情報提供は、引き続きメールで流したり、プリントアウトして提示するなどした。どうしても3年生生中心の対応になってしまい、1・2年生への対応が手薄になってしまう。各学年の普通コースに進学部の教員配置を要望します。
	就職		就職に対する早期の意識づけを外部機関との連携を取って行い、最後まで粘り強く指導している。	明確な志望動機を持たせ、進路実現のために自ら計画的に取り組むことができるようになる。	就職セミナーにおいて、興味関心のある職種調べと自己の適性を知り、ミスマッチから早期離職をなくする。また、面接指導など実践的プログラムを実施する。	休校・分散登校等による様々な行事の見直し、求人数の減少等あったもののセミナーや面接指導を通してほとんどの生徒が内定を頂いた。	B	B	B	2年次の就職セミナーでは、レディネステストという自分の性格を知ることからはじめ、採用試験で頻出のクレーンナー一般職業適性検査やSPIなど導入。就職試験について継続的に学ばせた。また面接指導を行い、就職アドバイスを行うことで早期離職がないよう指導した。3年次では企業調べや求人票の見方など実践的な学習を行い、主体的に行動し、就職試験に臨むよう指導した。できれば履歴書の項目「志望の理由」を生徒自身で作成する能力をつけさせたい。履歴書完成を受け外部とも連携し面接対策を実施した。
	情報	学習の記録、振り返りの実施	学習記録、ポートフォリオの整理のためにBLENDを導入し、活用可能な設定を行っている。	BLEND活用の設定の対応に加え、定期的な利用実態を把握する。	学期毎に教員、生徒に対して利用アンケート調査して改善に努める。	BLENDにおける学習記録、ポートフォリオの活用が進まなかった。基本ルールの策定や、課題発信の仕方が周知できていない。一方、アンケートの利用は少しずつ浸透してきたので、このまま様子を見ていきたい。	B	C	B	BLENDにおけるポートフォリオの活用が進まなかった。基本ルールの策定や、課題発信の仕方が周知できていない。一方、アンケートの利用は、コロナ対策でもある「健康観察アンケート」により、かなり浸透してきた。ただ、管理職にのみ負担がかり、推進に大事な「持ち回りや分担」により、「誰でもできる」アンケート発信にならなかった。また、オンラインを学校に取り入れるための方法をもっと考えていく必要がある。
2. 基本的生活習慣と規範意識の確立	教務	健康に留意し、規則正しい生活の実行	特別な理由以外の欠席、欠時等の生徒は少ないが、遅刻の多い生徒は目立つ傾向にある。	出欠管理を適宜確認し、担任、教科担当の生徒指導の正確なデータを提示できる。	出欠状況の入力確認を定期的実施して、各担当に発信する。	入力を忘れないこと、BLENDと出席簿や教務手帳の数字が合っているか確認することを朝会等で繰り返して発信した。前期よりは入力漏れが少なくなっていると感じる。小まめな担任の先生はその都度担当者に声かけをされていた。	B	B	B	入力漏れを防ぐためには、最初のBLEND研修会で提示しているように、その日の入力状況を担任が点検し、週末に学年部長が最終点検するという流れを各学年で徹底していくことが大切であると考え。成績入力期間になるまで教科担当者が入力漏れを気がつかないと、欠時の多い生徒を担当が指導する際に困るので、この流れに慣れていくことが必要である。
	生徒指導	校内外で社会的規範意識の確立	SNSでのトラブル、対人関係でのトラブルが多く占めている。	生徒が主体的に考えて行動し、良い人間関係を築くことができるようになる。	年度初めの「ネットモラル教室」でネット犯罪被害防止やSNS上でのトラブル防止などについて、強く訴えかけていく。	年度初めの「ネットモラル教室」はコロナ対策のため、第2学年のみ実施した。これ以外で、SNS上でのトラブル防止について訴えかける場面あまりはなかったが、大きな問題につながる事案は発生しなかった。	B	B	B	大きな問題につながる事案はなかったが、我々の見えないところで生徒間の小さなトラブルはたくさん起きていて、週末に学年部長が最終点検するということの流れを各学年で徹底していくことが大切である。成績入力期間になるまで教科担当者が入力漏れを気がつかないと、欠時の多い生徒を担当が指導する際に困るので、この流れに慣れていくことが必要である。
3. 安全・安心な学校生活空間	生徒支援	自尊感情の育成・他者理解	生活アンケートによる面談、教育相談から生徒の経過観察、働きかけを行っている。	自分も他人も大切に考え、安心できる学校生活を送ることができる。	生活アンケート内容の吟味、Hyper-QU実施と職員研修、関係委員会での迅速な対応を行う。人権啓発ポスターの作成、掲示を積極的に行う。	生活アンケートは内容吟味の上実施し、関係委員会でも結果を共有し対策をした。Hyper-QUとその後の職員研修も実施した。人権啓発ポスターは作成はできなかったが、掲示は積極的に行った。	B	B	B	Hyper-QUについては、さらに成果を上げるためにアンケート結果の活用を見直していく必要があると思われる。同時に、職員のHyper-QU研修会への積極的な参加が望まれる。人権啓発ポスター作成については、そういったポスターの外部からの募集や人権推進週間等も活用し、美術の授業とコラボできればと思う。
	環境美化	環境教育の推進	教室の美化、ゴミの分別、校内外の美化活動を通して意識を高めている。	校内外で環境を意識し、物を大切に使うことや公共の場の美化に努める行動が無意識にとれるようになる。	ゴミの分別等にとどまらず、地球温暖化、レジ袋を減らす等、ポスターの作成などで啓発活動を行う。	ポスター作成などの啓発活動ができなかった。教室以外の場所でもゴミについてきちんと分別ができていない所もあった。	C	C	C	ゴミの分別や校舎内外の美化など、清掃に対して生徒だけでなく教職員の意識も高める必要があると感じる。資源として活用できるゴミなどリサイクルについても考えていく必要があると思う。
	事務	施設の整備・点検	巡回、定期点検を行い、危険場所を修繕するよう努めている。	学校施設等の利用において怪我・事故がないようにする。	巡回や教職員からの報告によって確認した機器の故障、危険場所は生徒等の安全確保を第一に、業者との連絡も迅速に行っていく。	2回の定期点検実施及び報告書作成。生徒の安全第一に優先順位を考え、修繕等を実施。単年度で実施できないものについては次年度以降も引き続き検討を行う。エアコン更新が喫緊の課題である。非接触型の体温計を配置し、来校による安全確保を行った。	B	B	B	コロナ感染対策においては、鳥取県からの補助金を活用し、ある一定の水準の設備は整えることができた。今後、修繕も含めて年度計画を立て、安全を確保できる施設整備を行ってきたい。
4. 地域に信頼される教育・地域の人が自慢できる学校づくり	総務	情報発信の強化・保護者との連携	振興会役員活動に協力いただき、取り組みの活性化を試みているが、参加者が少ない行事も多い。	活動参加のみならず、本校教育に理解いただき、協力体制を強化する。	BLENDやマチコメールを利用し積極的な情報発信を行う。また、魅力あるホームページとなる様に工夫する。	コロナ禍の中で、学行事への保護者参加の機会を作ることができなかった。そのようの中で、北振(振興会広報誌)だけは各学期毎に発行することができた。	D	D	C	コロナの影響が次年度にも及ぶことが予想される中で、どのようなかたちで振興会活動を実施するか、課題は山積である。一方、同窓会から共同で生徒に還元できる活動ができないか…などを案もいただいているので実現できるよう連携を強化したい。外部への情報発信としては、昨年度、塾対象の高校入試説明会を実施した。本校の教育活動を理解していただくよい機会になったと感じているので、次年度も継続して開催したい。
	生徒会	地域との連携活動	校外美化活動、部活動単位での地域活動の参加や交流が行われている。	地域からの活動依頼に積極的に応えとると共に、本校発案の活動に取り組んでいく。	地域における校外美化活動を生徒会主催や部活動の一貫として積極的に行っていく。	9月に校外美化活動を実施し、150名の生徒が参加してくれ、学校周辺のゴミ拾いに協力してくれた。	B	B	B	コロナ禍の中、校外と係わる活動は難しいが、今後とも美化活動など地域に貢献できる活動を続けていきたい。
	生徒指導	あいさつの励行と責任ある行動の実行	あいさつと、交通マナーを目的とした門前活動は保護者、生徒会、地域の方と協力して行っている。	交通マナーのしっかり守り、事故を防ぎ、地域の児童や人々とあいさつを交わしていくことができる。	毎朝、教員が門前指導において、あいさつ運動、服装や交通マナーの指導を含めて行っていく。また、マナーアップさわやか運動では、生徒会と地域の方々、保護者と協力してあいさつを交わしていく。	登下校時の自転車の交通マナーや公共交通機関での乗車マナー等について地域の方から苦情のお電話をいただくことが多かった。マナーアップは規模を縮小して行われたため、地域の方や保護者と協力できなかった。	B	C	C	地域の方から苦情をいただいた中で今年度特に目立ったのが、地域の方に指導を受けた際の生徒の対応や道を譲っていただいた際のお礼が言えない等についてである。また、他校の生徒との自転車接触事故等が起きた際にも適切な行動を取らず、その場から去ってしまうような件もあった。交通ルールやマナーを守ることが訴えかけるとともに上記のような対応の仕方についても指導していかなければならない。マナーアップ運動については次年度コロナが落ち着けば、また地域の方や保護者と協力して実施したい。
5. 特色ある教育の推進	看護	医療・福祉機関との連携	看護教育の一環として、福祉施設、病院等での実習をさせていただき、高い評価をいただいている。	周囲に感謝し、より一層責任ある行動がとれるように自己を磨く。	教員、生徒共に感染予防対策を十分に行い、臨地実習が行えるように施設と連携を図る。また、個人情報保護に努める指導を徹底する。	感染予防対策を十分に行い、学内実習を取り入れ、施設側と連携をとりながら何とか今年度の臨地実習を終了した。個人情報保護に関しては問題なかった。しかし、実習中の言動やルールが守れないなど一部の生徒でみられた。	B	B	B	引き続き感染予防対策や実習中の言動など指導を行ってきたい。また、実習施設との調整・連携も同様に行ってきたい。今年度はワクチン接種も開始となることから、看護学生として、さらに教員は看護職として希望者にはワクチン接種は重要と考える。その点配慮いただき、生徒は公欠で教員も義務免での接種が可能となるよう検討いただきたい。
	探究学習	地域連携・地域課題への取り組み	昨年度、米子市長に参加していただき、発表を行ったが、単発的であった。	自ら地域における課題を発見し、問題解決を目標に思考して発信していく取り組みが行われる。	課題を見つけ出す力を養成するためのヒントを示し、発見につなげていく機会を増やしていく。	今年度、全学年を対象に「コロナウイルス感染症」をテーマに調べ学習及びレポート提出を行った。また、コロナ禍ではあったが、感染症対策をした上で「職業ガイダンス」(1年)や「SKY講座」を実施した。	B	B	B	ミッションを提示し、ミッションを解決するため段階的な問いかけと進捗状況の確認をする。
コース制	地域社会に求められるコースの特色	普通科の特色が求められているなか、コースの再検討を行っている。	新学習指導要領のもと、コースの特色を活かしたカリキュラムマネジメントが行われている。	教育改革プログラム委員会を設置し、各コースの教育力向上の方策を検討していく。	前期で4回の教育改革プログラムを開会し、協議を重ねてきている。方向性は決まりつつも具体的なカリキュラム委員会、情報化推進委員会、探究学習推進委員会への繋ぎが遅れている。	C	B	B	引き続き、新課程カリキュラム、地域のニーズ、生徒数の減少等を考え、慎重かつ早期に整えていきたい。	

評価基準 A:十分に達成している B:概ね達成している C: 取り組みはやや遅れている、または、成果は十分には出ていない D:より一層のまたは新たな方策が必要である